

式 辞

厳しい寒さもようやく和らぎ、日増しに春の訪れが感じられる今日の佳き日に、大阪府立 泉陽 高等学校 第71回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員一同この上もない喜びであります。

ご来賓の皆様には、ご多用中にもかかわらず ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、この3年間、様々なご苦勞があつたことと拝察いたします。

お子様を支え、育まれてきたことに対して敬意を表するとともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただきましたことに 心より感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました392名の皆さん、卒業おめでとうございます。

人の営みは代々受け継がれるものです。71期生の皆さんは、これまでの本校の歴史と伝統を受け継ぎ、それをさらに前へ、深く、そして新しくしてくれました。

71期生は、個性豊かな生徒が多い学年で、生徒たちが自主的にさまざまなことに取り組んだという印象があります。また、部活動で活躍した生徒が多い学年でした。自由な雰囲気の中で過ごした3年間で学習面でも大きく伸び、自分の必要なことがしつかり出来ていた学年でした。

先生方と生徒の距離が近く、最後まで先生を信頼し頼っている姿も印象的でした。

2年のグアム修学旅行では不安な声が多い中での出発でしたが、英語でコミュニケーションをとって4日間を過ごしたことはとても良い経験になりました。

体育祭では、学年の枠を超えて4つの応援団が、団ごとに競技や応援に取り組みました。特に3年生では、団長を中心にリーダーシップを発揮して1・2年生を見事にまとめてくれました。泉陽生全員が∞に楽しみ、∞に表現しました。

文化祭では、「泉春　く咲かせて魅せよう泉陽生の青春を」というテーマのもとで、3年生10クラスが模擬店に挑戦しました。どのクラスも創作意欲あふれた独創的な装飾で、味だけでなく笑顔という最高のおもてなしを提供してくれました。準備段階から「クラスみんなで盛り上がるう」という雰囲気がありました。

人は結果よりも、そこに至るまでの過程や頑張りを見て感動します。私は、そうした皆さん一人ひとりの営み、そして成長に大きな拍手を送りたいと思います。

このような生徒がたくさん学び、卒業していくこと、それが本校の最大の誇りです。

皆さんは高校卒業後、大学などに進学し、いずれ社会に出て職業につき働くことになります。

これまでも時代の変化に伴い、消える職業、新たに生まれる職業がありました。が、人工知能(AI)の発達やIoTの実現などの技術革新により、今後10〜20年間で職業のあり方が大きく変化することが予測されています。

日本の労働人口の多くが、人工知能やロボットなどに代替できるようになる可能性が高いと推測されています。

皆さんには社会の変化によって生き方、働き方を変えられているというより、変化を利用して生き方、働き方を主体的に変えることができる人になってほしいと思います。

長い人生を一日に例えれば、皆さんはまだ朝の早い時間を過ごしているにすぎません。これからの長い一日をどのように過ごすのか、どのような道を歩むのか。決めるのは皆さん自身です。

まずは、「今の自分にしっかり向き合ってください。」そして、これから出会うさまざまな人と意見や思いが一致するとは限りませんが、それでも相手を理解したいという気持ちを持って接することで、相手も自分のことを理解してくれるようになります。お互いを尊重し、対話を重ねる中でこそ、「自分たちの常識を超えられる瞬間」が生まれます。

いよいよ泉陽を旅立つ時がやってきました。「今の自分を超える旅」に出ます。そこでは成功することも挫折することもあるでしょう。一生懸命努力してもうまくいかない時もあるでしょう。そんなときは、つぎの言葉を思い出してください。

「原田マハ」さんの「ほんじつはお日柄もよく」という小説のなかの言葉です。

困難に向かいあったとき、もうだめだ、と思ったとき、想像してみるといい。

3時間後の君、涙がとまっている。

24時間後の君、涙は乾いている。

2日後の君、顔を上げている。

3日後の君、歩き出している。

どうだい？ そんなに難しいことじゃないだろうか？

だって人間は、そういうふうにできているんだ。

結びに、皆さんの前途が健康で幸多からんことを祈念して式辞とします。

平成31年2月27日

大阪府立 泉陽 高等学校長 武田 温代